

## 環境・農水常任委員会 県内行政調査

1 調査日 平成26年11月12日（水）

### 2 調査の概要

#### 赤野井湾周辺（守山市）

オオバナミズキンバイは、琵琶湖では2009年12月に赤野井湾で初めて確認されて以降、急速に生育範囲を拡大しており、2013年12月には南湖全域における推定生育面積が約64,800平方メートルに達した。本種は、繁殖力が非常に旺盛で、茎の伸長速度も極めて速いため、水面を大規模にマット状に覆うことがあり、漁船の航行阻害などの影響が出ているほか、太陽光の遮断や水流の停滞による水草、底生生物などへの生態的影響が懸念されている。このような侵略的影響のため、本種は今年6月には外来生物法に基づく特定外来生物に指定された。

今年3月には県、関係市、保全団体、漁協等からなる琵琶湖外来水生植物対策協議会が設置され、防除を推進する体制が構築されているほか、今年度からは従来の人力による作業に替わり、建設機械を導入したより効果的な駆除事業を展開しているところである。ついでには、建設機械による駆除作業の現状を調査した。

